

大学共通テスト オープンAI、9科目満点

得点率97%、グーグル上回る

2026年1月21日 2:00 [会員限定記事]

保存



17～18日実施の大学入学共通テストに最新の人工知能（AI）が挑戦したところ、米オープンAIは主要15科目のうち9科目で満点を取った。得点率は97%に達し、米グーグルや米アンソロピック（ともに91%）を上回った。AIが難関大入学レベルの知能を備え、幅広い事務作業を担える能力を改めて示した。

オープンAIの成績が競合を上回った

	オープンAI	グーグル	受験生平均
15科目計	96.9%	91.4	58.1
英語	96.5	95	59
国語	90	85.5	58
世界史	97	97	61
日本史	97	92	62
数学ⅠA	100	100	47
数学ⅡBC	100	94	54
物理	95	81	46
化学	100	90	57

(注) 数字は得点率、受験生平均は河合塾などの予想値

AIスタートアップのライフプロンプト（東京・新宿）と共同で調査した。オープンAIとグーグル、アンソロピックの最新モデルに主要15科目を解答させた。3モデルともにすべての科目で制限時間内に解答した。

オープンAIのモデルは数学のⅠAとⅡBC、化学、化学基礎、物理基礎、地学基礎、生物基礎、情報Ⅰ、公共・政治経済の9科目で満点だった。同社のAIモデルは2024年の共通テスト解答率の66%から25年に91%となり、26年に97%に上昇した。

グーグルやアンソロピックは問題文の入力から解答の出力まで最短4分ほどで1科目を終わらせた。数学や国語でも最長20分ほどで解答欄を埋めた。オープンAIは両社に比べて2～3倍の時間をかけて解答した。

3つのAIモデルとも理系科目が得意で、国語や地理での取りこぼしが目立った。英語でも長文とイラストをもとに適切な単語を選ぶ問題で失点した。数学の図形問題は認識できたが、世界地図などの変則的な画像を認識する能力に欠けた。

AIモデルごとの得意分野も顕著となった。ライフプロンプトの遠藤聡志最高経営責任者（CEO）は「モデルの特性に応じて使い分けることが重要だ」と話す。